

令和5年度 第2回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日 時 令和5年12月19日（火） 午後3時～午後4時30分

場 所 京都市上下水道局総合庁舎 4階 会議室4-1・2

出席者（五十音順、敬称略）

1 委員

浦上 拓也	近畿大学経営学部教授
兒島 宏尚	京都商工会議所専務理事
小林 明子	市民公募委員
寺内 成子	一般社団法人京都市地域女性連合会理事
中田 英里	公認会計士
平山 修久	名古屋大学准教授（減災連携研究センター）
山舗 恵子	株式会社京都リビング新聞社取締役編集部長

2 京都市

京都市公営企業管理者上下水道局長、次長、技術長
総務部長、総務部担当部長、総務部お客さまサービス推進室長、経営戦略室長、
技術監理室長、水道部長、下水道部長
事務局（経営戦略室）

次 第

1 開 会

- (1) 出席者確認
- (2) 進行の確認、会議の公開について

2 議題

- (1) 令和6年度経営評価（令和5年度事業）からの評価基準等の見直しについて
- (2) 中期経営プランに基づく令和5年度計画上半期実施状況等について

3 報告

- (1) 令和5年9月市会について
- (2) 令和4年度包括外部監査結果の指摘事項等に対する対応について
- (3) 資産の有効活用について

4 今後の予定

5 閉 会

1 開 会

(1) 出席者確認

(2) 進行の確認、会議の公開について

浦上委員長： 本日の議事進行等について事務局から説明いただきたい。

事 務 局： 議事の説明、資料の確認

浦上委員長： 本委員会の会議は原則として公開とし、非公開情報はないため、公開で行いたいと考えるが、いかがか。

各 委 員： 異議なし。

浦上委員長： 議事録は後日公開することとし、撮影は次の議事に入るまでの間とする。
議事録は2名の署名が必要であるので、今回は、寺内委員と中田委員にお願いする。後日事務局から連絡があるので、よろしくお願いします。

2 議題

(1) 令和6年度経営評価（令和5年度事業）からの評価基準等の見直しについて

浦上委員長： 議題(1)「令和6年度経営評価（令和5年度事業）からの評価基準等の見直し」について事務局から説明いただく。

事 務 局： 資料の説明（資料1）

浦上委員長： ただ今事務局から議題(1)「令和6年度経営評価（令和5年度事業）からの評価基準等の見直し」について説明があったが、質問・意見等はいかがか。

兒 島 委 員： S評価を新設した新しい評価基準は非常に良い基準だと思う。行政は敢えて評価を出さない傾向にあるが、今回の基準では、コスト削減やお客さまサービスの向上についても目安としており、このように努力している点はアピールしていくべきだと思う。

京 都 市： 委員会の皆さまからいただいた意見を反映して評価基準・方法の見直しを検討した。分かりやすい基準を示し、しっかりと評価を実施することで、我々の取組について広く市民の方に御理解いただけるようアピールしていきたい。

平山副委員長： 以前からの本委員会における意見を反映して、今回この評価基準に見直したことは良いことだと思う。一方で、なぜその評価となったのか、評価が悪かった場合にはその状況を改善していくためにはどうしていくべきかを検討するこ

とが重要である。例えば、新しい評価基準に照らし合わせると、現在の評価基準から評価が改善する項目があるが、そういった項目についても埋もれさせることなく改善していくべきと考えている。資料１のＰ６においては、現在の評価ではＢ評価だったものが新評価ではＡ評価になったものが２項目あり、この理由を伺いたい。

京 都 市： なぜその評価になったのか、どうすれば改善するのかについては、来年度の取組に反映させるため各課において毎年必ずチェックしている。また、Ｂ評価がＡ評価となった２項目については、いずれも数値目標の評価が影響している。現在の評価では、取組項目を構成する小項目は達成できていたにもかかわらず、数値目標が達成できていないことでＢ評価となってしまうなど、総じてみれば相応とは言えない評価となっていたが、新評価においては、数値目標の達成・未達成を取組項目評価と同列に扱うことによりＡ評価となった。このように評価を上げさせる目的ではなく、正当な評価となるよう見直している。

山 舗 委 員： 自分自身、仕事上では頑張りに応じて評価がなされることでモチベーションの上昇に繋がると考えているので、Ｓ評価を設定することは良い手法と思う。資料１のＰ３新評価基準において、「達成」という言葉の意味として、本来は目標をクリアすれば「達成」だと思うが、８割達成で「かなり達成」、５割達成で「おおよそ達成」に違和感を抱く。

京 都 市： 「達成」という言葉の使い方については悩ましく感じており、使い分けの方法や代わる言葉を調べたものの、良い基準となる文言が見当たらず、現在の評価との文言の連続性を踏まえて引き続きこの表現としている。具体的な判断基準は資料１のＰ４の判定基準の目安の中に落とし込んでおり、こちらを基準としてしっかりと評価してまいりたい。

中 田 委 員： Ｓ評価を設定することで、評価のメリハリがついて分かりやすくなったと思う。資料１のＰ４の数値目標がない項目の判断基準の目安において、目標期日より早く達成するようなケースが想定されていないように思うが、なぜか。

京 都 市： 当局の事業においては、目標期日どおりに達成することが求められているものも多く、また、予算の関係上前倒しが難しいケースもある。しかし、御指摘のとおり目標期日より前倒しすることで、より効果が高まるケースもあると思うので、そのような場合は積極的に評価していきたい。

浦上委員長： 前倒しするケースとしては工事などが当てはまると思うが、前倒した結果、本来の時期に実施しなかったことで評価が下がることはまた違うと思う。公共事業という性質上、予算どおりにやることが求められる場合もある。

京 都 市： 御指摘のとおり、例えばお客さまサービスといった視点で取り組んでいる目標などの中に時期を早めることで広く効果が認められるものがあれば、目標期日より早く達成できた場合についてもしっかりと評価したい。

小 林 委 員： S評価の設定については、これまで以上に頑張って進めたことが評価に反映されるので良いと感じるが、評価結果などがどのように市民に周知されるのか分からない。

京 都 市： 今回審議いただいている評価結果は、毎年度発行している「京都市上下水道事業経営評価」という冊子に掲載し、ホームページで公開するとともに市民の代表である議員の方にもお配りしている。また、検針時に各戸へ配布するリーフレットでも経営評価の話題に触れており、併せてQRコードからホームページへ誘導するなど、広く市民の方に目にしていただけるよう取り組んでいる。

山 舗 委 員： 新評価において、老朽配水管の更新・耐震化の実施などがS評価になったことは、一市民としては安心できた。日頃、老朽化について危機感を覚えるニュースを耳にするので、市民に対して良いアピールになると思う。

小 林 委 員： 先ほど話題になった検針時のリーフレットは情報量が多く、文字も小さいので見にくい。インパクトのある写真を載せるなど、構成を考えた方が手取りやすいと思う。

京 都 市： 市民の皆さまに御覧いただくことを目的としているので、いただいた御意見を参考に取り組んでまいりたい。

寺 内 委 員： 評価基準について、数値目標なしの評価基準が数値ではなく言葉で整理されているが、数値目標がない取組項目でも実施状況をパーセンテージなどで示して評価することはできないのか。若い人や外国の方は、どれくらい達成されているのか分からないと思う。

京 都 市： 数値目標のない項目については、先ほども少し触れたとおりどのように評価基準を表現するのかが課題と考えているが、現状では、Sなどの記号や点数による評価と文章による説明をリンクさせることで、評価の中身をお伝えできるよう取り組んでまいりたい。

(2) 中期経営プランに基づく令和5年度計画上半期実施状況等について

浦上委員長： 議題(2)「中期経営プランに基づく令和5年度計画上半期実施状況等」について事務局から説明いただく。

事務局： 資料の説明（資料２－１、２－２）

浦上委員長： ただ今事務局から議題(2)「中期経営プランに基づく令和５年度計画上半期実施状況等」について、説明があったが、質問・意見等はいかがか。

小林委員： これまでの文章ばかりの表では読む気がしなかったが、今回のレイアウト変更では写真も入っており分かりやすくなったのでとても良いと思う。

京都市： 御指摘のとおり、これまでの上半期実施状況は文字だけで、内部資料のような大変分かりにくいものだった。本来は市民の方に見ていただくのが目的のため、今回見直したい。

平山副委員長： レイアウトは非常に良くなったと思う。取組項目ごとに方針・目標・実施状況という構成になっていることが一般の人には分かりづらいため、表の見方についても掲載した方がよいと思う。

また、目標欄には目標数値が入っているが、実施状況では数値が示されていない項目がある。数値を書くのであれば、目標と実施状況にどちらも記載して揃えるべきと思う。

加えて、市民に分かりやすい資料となるのは良いことだが、この資料を作成するために更に職員の手間が増えるようなことはないようにしてほしい。普段の業務をこなす中で自然と市民に分かりやすい資料が完成するフローにしておくなど、業務改善も併せて検討してほしい。

京都市： まず１点目については、御指摘のとおり、初めて冊子を手にとられた方には構成が分かりにくいと思うため、内容を御理解いただけるよう表の見方の掲載などを改善したい。

２点目の、目標数値に対して実施状況が連動していない部分については、しっかりと精査して正しい表記に修正したい。

３点目について、これまでは、上半期実施状況・年間実施状況を順に作成し、最終的には経営評価に反映するという段階を踏んでいたため、手間がかかっていた。普段から四半期ごとに進捗状況を内部的には把握しているので、これらが手間なく積みあがって最終的には年度末の成果物になるよう、業務の改善に繋げてまいりたい。

児島委員： 資料２－２のＰ７取組②内の「京都府下」は、「京都府内」に修正した方良い。

京都市： 御指摘のとおり、修正する。

山舗委員： レイアウトについて、各ページに掲載されている取組項目ごとの方針・目標・

実施状況という３つの構成が１つのグループであることが分かるよう取組ごとに左側に罫線を入れるなど、工夫してはどうか。

京 都 市： ３つの構成が一体のものであることが一目で分かるよう工夫したい。

中 田 委 員： 数値目標について、資料２－２のＰ２において、設定なしの目標を載せている意味を教えてください。

また、Ｐ９では、琵琶湖疏水記念館の累計来館者数が何年間で達成されたものなのか分からないため、単年度目標との比較ができないと思う。

加えて、Ｐ１１において、積立金の残高や企業債残高などは上半期の実績も掲載してはどうか。

京 都 市： まず、Ｐ２において数値目標が設定なしの項目については、プラン最終年度の令和９年度末目標は設けているものの、複数年かかる事業の完了を以て数値が向上するものであるため、途中の年度では目標として設定していない。ただ、「設定なし」という文言だけでは分かりにくいと思うため、先ほど平山副委員長から提案のあった表の見方の中に注釈を設けるなど、工夫できないか検討する。

琵琶湖疏水記念館来館者数については、開館した平成元年度からの３４年間の実績となるが、御指摘のとおり比較しづらいと思うので、記載の方法を工夫したい。

財政関係の目標値について、積立金の残高は当年度の黒字の中で実際に積立金として活用できる部分を目標としており、民間のような中間決算がなく、決算見込みを出すことも現段階では難しいため示していない。また、企業債残高についても年度内に発行と償還を繰り返しているため、この時点の残高を示しても年度末の結果に繋がるものではないため、これらの評価については年度末時点の達成状況の評価するものと考えている。

浦上委員長： 各ページに付与されているＳＤＧｓのマークはどのように選んでいるのか。同系統と思われる目標でも別のマークが付与されており、各取組の内容を反映して設定しているのか疑問に思った。昨今、小学生や中学生へもＳＤＧｓに関する教育が進んでいて、社会的な関心が高く、このような側面から興味を持ってもらえる可能性もあるため、整理をしておいてほしい。

京 都 市： 各取組に基づいて設定しているものではあるものの、改めて取組内容と目標ゴールの関係性について精査したい。

3 報告

(1) 令和5年9月市会について

(2) 令和4年度包括外部監査結果の指摘事項等に対する対応について

(3) 資産の有効活用について

浦上委員長： 報告(1)「令和5年9月市会について」、報告(2)「令和4年度包括外部監査結果の指摘事項等に対する対応について」、報告(3)「資産の有効活用について」の3件について併せて事務局から説明いただく。

事務局： 資料の説明（資料3、4、5）

浦上委員長： ただ今事務局から報告3件について、説明があったが、質問・意見等はいかがか。

児島委員： マンホール蓋の売却は、なぜ3枚にしたのか。数があるのであれば、もう少し募集してもいいのでは。

京都市： 初めての取組でどのくらいのニーズがあるか分からなかったため、年代ごとに異なるデザインを1種類ずつ3枚と限定した。今回の募集においては13名の応募があり、取組がSNSや新聞などでも取り上げられ一定の話題性があったと認識している。こうしたことも踏まえて、今後の販売については検討していきたい。

小林委員： マンホール蓋のマニアが一定数いるようであれば、オークションなどで売却してはどうか。動物園近くで堆積する白川砂も売却できたと聞いているので、色々な形で収入が増えれば良いと思う。

京都市： 他都市の事例では売却値段3,000円程度に対して本市は高めの設定ではあったが、ニーズも確認できたので、オークションといった手法なども含めて検討していきたい。また、マンホール蓋の売却以外の新たな収入源を生み出すことについてはなかなか難しい面もあるが、引き続き考えていきたい。

寺内委員： 資産の有効活用という視点では、マンホール蓋の売却がどれほどの収入になるのか疑問である。

京都市： 御指摘のとおり、たくさん売ったところで大きな収入に繋がるものではないが、もう1つの目的として下水道のPRを兼ねた取組でもある。今回、SNSをはじめとしたメディアで取り上げていただいたことで、下水道への関心が高まったのではないかと考えており、このような視点も重視しながら取り組んでまいりたい。

山 舗 委 員： 未利用地の活用方法の提案について、資料5の別紙3の中で、右端の位置図欄に振られた番号からリンクが飛べるようになっているようだが、リンク先では土地の情報がどのように確認できるのか。今の時代、どこからこういった提案が出るか分からないので、G o o g l eマップで表示するなど京都市外の方にも分かりやすい資料がついていて良いと思う。

京 都 市： インターネット上で確認いただくと、リンク先で周辺地図や写真を確認できるようになっている。京都市外の方からも御提案いただければ有り難いと考えているので、御意見を参考に検討する。

中 田 委 員： 未利用地の活用方法の提案について、ホームページを見る方はどうしても限定されてしまうので、現地に提案募集についての掲示をすれば、実際にその前を通った方が興味やアイデアを持たれる可能性もあると思う。

京 都 市： 周辺地域との調整もあるが、御意見を参考に検討する。

寺 内 委 員： 未利用地は売却以外に構想があるのか。京都市では、公園等にコンビニを誘致するなど、市民にもと市有地の活用を促すような取組をしていると聞いた。

京 都 市： 売却以外でも、一時的な貸付など様々な可能性があることを想定して取り組んでいくこととしている。

4 今後の予定

浦上委員長： 次回の予定について、事務局から説明いただく。

事 務 局： 次回の委員会の日程については調整のうえ、後日連絡させていただくので、よろしくお願いします。

5 閉 会

事 務 局： 長時間にわたり御審議いただき、御礼申し上げます。